

私が考える職業奉仕

私はロータリークラブに入会して35年になります。我がクラブも今年35周年を迎え盛大に記念式典を行った所ありますが、私はロータリー以外に所属している団体があります。この団体は、純然たる経営者の勉強会でありロータリークラブのような奉仕活動は一切やらない団体ですが、「良い会社を作ろう・よい経営者になろう・よい経営環境をつくろう」の三原則を旗印に企業経営者の質の向上と会社発展を目指した団体であります。

今年この団体が創立40周年を迎えました。この団体には県内各地に支部があり、そのなかの支部の一つが私の住む地域にあります。この支部は30年前、私が（この地域にこんな勉強会があったら良いのに）という思いから自ら立ち上げた支部ですが、当初数人で始めた支部も現在では50名を超すまでに成長しました。ちなみに県内全体では、7支部で600名の会員がおります。

さて、ロータリークラブに入会した35年前は私自身、職業奉仕などという認識は全くありませんでしたが、私が取った行動（支部設立）がロータリークラブでいう職業奉仕の概念に当てはまっていたのではなかったのかなと感じる事が後に、鈴木一作パストガバナーが地区の職業奉仕委員長の時に3年間出向した際、彼の職業奉仕論をお聞きし、確信を得た気がしました。

職業奉仕は自分の生業以外の社会活動の部分で行わなければならない。企業活動での奉仕行動は企業のコンプライアンス上の問題であり、ロータリークラブでいう職業奉仕の倫理訓とは違うものと聞いていましたので。

しかし、今回この作文をつくるに当たって、2024年の地区研修協議会の鈴木一作パストガバナーの言葉を読み返してみても、気づかされました。先生の「職業奉仕は森である」という文章の中に、「職業奉仕の実践」として記された文章がありますが、「職業を生かした社会貢献が職業人としてのロータリアンの務めという考えも職業奉仕の森の中に入っているのです」と言っておられます。そう考えていくと、今回のテーマである「それぞれの職業奉仕」、生業活動での奉仕ということも「あり」ということになります。鈴木パストガバナーはこの文章の最後に、「職業人であるロータリアンは、職業奉仕の森に生えている木々群に相応しい生き方をしなくてはならない」と締めくくっておられます。

私もそろそろ後期高齢者に近づいてまいりましたが、ロータリーの倫理訓を忘れずに残りの人生を歩んでまいりたいと思っております。今回この作文を書くに当たって、過去の文章を読み返し考える機会を与えてくださった委員長はじめ委員会に感謝いたします。